

# キッズ☆スポコンひろば

令和3年8月 日発行

## テーマ「見守る」

第3号・4号では「見守る」をテーマに、スーパーキッズ保護者の方から御寄稿いただきましたので、紹介いたします。

子どもの可能性は無限です。ただ、本人だけでできることには限界があります。そこで、親としては、子どもに色々な機会を与えることが可能性を広げる重要な役割だと思います。

と言っても、押しつけはあまり良くないかと思います。かつて、私の長男が小学生の時に、地元のサッカーチームの体験に連れて行ったのですが、上手くできず、ただボールが当たって痛いという印象しか残らず、その後全くサッカーに興味を示さなくなってしまったことがありました。

その時に、きっかけを与えるのは大事だが、本人の意思でやってみようとする思いも大事だと感じました。もちろん、あまりやりたくないと思っていても、意外と上手に出来て、その競技を始めることもあると思いますが、本人の興味が第1優先だと思います。また、子どもは楽しければ、どんどん自分で考えて行動・練習して上達するし、逆に面白くなければ、どんどん興味が薄れていくので、そのようになったら親としては「もっと頑張ってくれればいいのに」と思いがちですが、無理に固執しないのも重要だと思います。どうしても子どもは、楽しいほうに流れていきますので、楽しく思えた競技に取り組んでいく方が明らかに上達し、勝つようになります。また、勝ちたい為に自ら練習し、研究するようになります。

現在、次男は陸上競技とクライミングをやっておりますが、親がその競技の経験者であれば、色々なアドバイスをして、熱心に聞くという形になるかと思いますが、残念ながら私は、陸上もクライミングもほとんど知識がないので、応援してビデオ撮影をし、研究材料をサポートするといった見守るスタンスでいます。そもそも、競技経験のない親の意見など聞いてくれませんし、それでいいと思っています。それより、指導者からの的確なアドバイスの方が100倍役に立つと思っています。子どもも成長するにつれ生意気な言葉を吐くようになってきましたが、やはり親がサポートしてくれている事は理解していると思いますので、それなりに親子の信頼関係は向上しています。

あまり過度な期待をするのは禁物ですが、将来日本代表になれるかもしれないし、頑張ろう！といった言葉をたまにポツリポツリと入れるのは、本人の意識向上には効果的だと思っています。「そんなの無理」という気持ちから「そうなれるかもしれない」という思いが少しでも本人に芽生えたらしめたものです。そうなれば練習への取り組み姿勢も明らかに変わっていきます。

しかし、子どもですから「勉強」という一番の仕事がありますし、ゲームやらYouTubeやらの誘惑もたくさんあります。それらすべて完璧にこなすのは難しいと思いますので、方向性がずれてきたら、親としては見守りつつ、軌道修正をするのが重要だと思います。

いろいろと親も悩みますが、子どもも、それ以上に悩み多き年頃ですので、時には厳しく、時には優しく見守っていきましょう。 (中3 N・Oさん 保護者)



### 〔担当〕

岩手県文化スポーツ部スポーツ振興課 主査スポーツ振興専門員  
スポーツ・コンプライアンス・オフィサー  
猿舘 祐子